

【No16】 🔍 全体のテーマ この一節は、人間社会における「集団」と「世界観」の関係性を扱っている。各社会文化的集団(sociocultural grouping)は独自の知識体系と評価基準(価値観)をもち、その枠を超えて他集団に影響を与えたり、個人が複数の世界観に属することで流動的に行動したりする様子が描かれている。

🔍 全訳 人間のいかなる集団も、それぞれ独自の世界をもっている。つまり、一定の知識の範囲と、一定の評価様式が存在する。そのような世界観は、時の流れとともに常に変化していく。また、その世界観が特定の集団に結びついているからといって、それが他の集団の成員によって、ある程度採用されることを妨げるものではない。それどころか、情報・嗜好・習慣・感情や判断の様式は、ある社会文化的集団から別の集団へと伝達され得る。そして、個人は複数の集団に忠誠心をもつこともあり、それに応じて彼ら自身が異なる世界観の間を移動する存在となりうる。

🔍 第1文

Any grouping of human beings has its own world: a certain range of knowledge and certain modes of evaluation.

人間のいかなる集団も、それぞれ独自の世界をもっている。つまり、一定の知識の範囲と、一定の評価様式が存在する。

■ 解説ポイント:

- ✔ any grouping: any は「どんな～でも」という意味で、ここでは不特定の単数名詞に用いられる(a grouping より一般的)。any は「どんな～」と譲歩の意味を持つ。
 - ✔ has its own world: 所有構文。its own によって「その集団固有の」ことを強調。
 - ✔ コロン(:): 直前の内容を具体的に言い換える、説明的に補足する役割。
 - ✔ a certain range of knowledge and certain modes of evaluation: and による並列。知識と評価の両面における範囲・形式。mode「形式」「様式」。
-

🔍 第2文

Such a worldview is subject to constant modification as time rolls on.

そのような世界観は、時の流れとともに常に変化し続けるものである。

■ 解説ポイント:

- ✔ subject to A: 形容詞句で「A の対象となる、A を受けやすい」。
 - ・The plan is subject to change. (その計画は変更される可能性がある)
 - ・subject A to B: 動詞構文で「A を B にさらす」。例) The soldiers subjected the city to heavy bombardment. (兵士たちはその都市を激しい爆撃にさらした)

- ✔ constant modification:「絶え間ない変化」。modification は「修正・変化」
 - ✔ as time rolls on:「時が進むにつれて」。副詞句。roll on は「時が流れる」という比喩的表現。ここでの on は、継続を表す副詞。
-

🔍 第3文

Nor can its association with the particular grouping prevent it from being adopted, to a greater or a lesser extent, by members of some other grouping. その世界観が特定の集団に結びついているからといって、それが他の集団の成員によって、ある程度採用されることを妨げるものではない。

■ 解説ポイント:

- ✔ Nor can ~: 否定語が文頭にくることで倒置が起きる構文。
 - ✔ its association with ~: associate A with B(AをBと結びつける)の名詞化したもの。it is associated with the particular grouping → its association with the particular grouping. it(its)は such a worldview を指す。
 - ✔ prevent A from ~ing:「Aが~するのを防ぐ」
 - ✔ to a greater or a lesser extent: 程度の大小を示す慣用表現。
 - ✔ some other grouping: some は「他のある一つの」程度を示し、「いくつかの」とは訳さないのが自然。
-

🔍 第4文

On the contrary, information, tastes, habits, modes of feeling and judgement can be transmitted from one sociocultural grouping to another, and individuals can in any case have loyalties to more than one grouping, so that they themselves are mobile between different worldviews accordingly.

それどころか、情報・嗜好・習慣・感情や判断の様式は、ある社会文化的集団から別の集団へと伝達され得る。そして、個人は複数の集団に忠誠心をもつこともあり、それに応じて彼ら自身が異なる世界観の間を移動する存在となりうる。

■ 解説ポイント:

- ✔ On the contrary:「それどころか」。前文との対比を明示。
- ✔ information, tastes, habits, modes of feeling and judgement: 5つの名詞が並列。最終の and は並列の終点を示す。
- ✔ can be transmitted: 受動態。「伝達されうる」

- ✔ from one sociocultural grouping to another: one は出発点、another は到達点。one ~ another は「一方から他方へ」の典型的構文。
 - ✔ individuals can have loyalties to more than one grouping: more than one = 「複数の」。
 - ✔ , so that ~ : 結果構文。「その結果、~する」結果の場合は通例 so の前にカンマを置く。
 - ✔ accordingly: 「それに応じて」
 - ✔ mobile: 「流動的な、可動的な」。社会的・文化的立場の移動性を表す。
-

[重要] 妨害動詞(V O from Ving)と否定語 ※二重否定

✔【1. prevent O from Ving】

They couldn't prevent her from leaving.

👉 彼らは彼女が立ち去るのを防ぐことができなかった。

- couldn't (=否定) + prevent(防ぐ) という否定動詞
 - 意味的には「防ぐことができなかった」=結果として「彼女は立ち去った」という肯定的な事実を示唆
 - 二重否定(否定 × 防止) = 肯定の行動という構造
 - = They allowed her to leave. (彼女が立ち去るのを許した)に近い意味を持つ
-

✔【2. keep O from Ving】(Nor 構文と倒置)

She couldn't forgive him, nor could she keep herself from thinking about him.

👉 彼女は彼を許せなかったし、彼のことを考えずにいることもできなかった。

- 前文と後文の否定の並列構造: couldn't forgive / nor could she keep herself
 - 「考えることを抑えることができなかった」=**結果として「考えた」**という肯定の行動
 - 二重否定(否定 × 抑制) = 実際にはした
 - このように not + keep from Ving → 実際にVした を意味することが多い
-

✔【3. stop O from Ving】

I didn't stop him from making that mistake.

👉 私は彼がその間違いをするのを止めなかった。

- didn't stop(否定) × from making(誤りの防止)
 - 結果的に「彼はその間違いをした」ことが暗示されている
 - 否定 + 妨害 = 実行された行動 → 肯定文と似た意味になる
 - 同様に: I let him make that mistake. とも近い意味になることがある
-

✔【4. stop oneself from Ving】

He couldn't stop himself from laughing at the joke.

👉 彼はそのジョークに笑うのをこらえることができなかった。

- 自分を抑えようとしたができなかった(否定)
- 二重否定(否定 × 抑制) = 肯定的結果: 彼は笑った
- よく使われる同義的表現: He burst out laughing. (彼は吹き出して笑った)

✔【5. be prevented from Ving】

The team wasn't prevented from competing in the tournament.

👉 チームは大会に出場するのを妨げられなかった(=出場した)。

- wasn't prevented(否定 + 受動) = 「妨げられなかった」
- 結果的に「出場した」という肯定の内容が暗示される
- 二重否定(されなかった × 妨害) = 実行された という意味構造
- 肯定文: The team was able to compete. と近い

[重要]二つの so that SV...

✔【1. 目的の so that S V】「～するために」=目的

◆ 訳し方: 「S が V するように / S が V できるように」主節の動作の目的を表す

- can / may / will / could / might / would などの助動詞が that 節内に高頻度で使われる

例: She studies hard so that she can pass the exam.

「彼女はその試験に合格できるように一生懸命勉強している。」

✔【2. 結果の so that S V】「その結果～」=結果

◆ 訳し方: 「その結果 S が V した」主節の結果を表す

- 助動詞を伴わず、普通の動詞の過去形・現在形が来る
- so that の前にカンマ(,)を置くことが多い。目的の so that の場合は通常カンマを置かない

例: He left the window open, so that the room got cold.

彼は窓を開けっぱなしにしていた。その結果、部屋が寒くなった。

✔【エッセイ 1:The Courage to Begin】

Change is difficult. Nor is the decision to step away from what's familiar in order to grow ever made lightly. But every true beginning demands a letting go before a moving forward.

・familiar:なじみのある ・step away from A:A から離れる ・lightly:軽々しく
・demand:要求する ・letting go:手放すこと

変化は簡単ではない。そして、「成長するために慣れたものから離れる」という決断が、軽々しく下されることはない。だが、本当の始まりには必ず、進む前に「手放すこと」が求められる。

[文法解説]

- 不定詞 to step away... in order to grow を含む長い主語
- Nor 助動詞+S. 「S もまたそうではない」difficult に否定の意味があるため、so ではなく、nor が用いられている。

✔_(S)The decision to step away from what's familiar in order to grow is ever made lightly.が元の形、Nor にして、文頭に出して、後ろを倒置(疑問文の語順)にしている。

✔【エッセイ 2:The Lessons We Carry】

Some lessons are loud. Nor are the truths engraved by pain and time quickly forgotten. They carve deep lines into the heart, and shape who we become long after the pain has passed.

・engrave:刻む ・carve:刻み込む ・long after:~ずっと後に

教訓の中には、声高なものもある。だが、「痛みと時間によって刻まれた真実」がすぐに忘れ去られることはない。それは心に深い痕跡を残し、その痛みが過ぎ去った後も、私たちの在り方を形づくるのだ。

[文法解説]

- 過去分詞 engraved by pain and time を含む長い主語
- Nor are + 主語 + 副詞(quickly) + 過去分詞(forgotten)

✔_(S)The truths engraved by pain and time are quickly forgotten. が元の形、Nor にして、文頭に出して、後ろを倒置(疑問文の語順)にしている。

✔【エッセイ 3:The Unnoticed Kindness】

People often admire bold gestures. Nor have the small acts of kindness passing between strangers in silence ever lost their quiet strength. No headlines follow them, yet they hold the power to restore faith in each other.

・gesture:行為 ・pass between A:A の間に交わる ・restore:回復させる

・faith:信頼 ・in silence:黙って

人々は、大胆な行動を称賛しがちだ。だが、見知らぬ者同士が静かに交わす小さな親切の行いが、その静かな力を失ったことはない。それに注目が集まることはないが、それこそが互いへの信頼を回復させる力を持っている。

[文法解説]

- 現在分詞構文(passing between strangers) を含む長い主語
- Nor have + 主語 + 過去分詞(never lost)

✓^(S)The small acts of kindness passing between strangers in silence have ever lost their quiet strength. が元の形、Nor にして、文頭に出して、後ろを倒置(疑問文の語順)にしている。

✓【エッセイ 4:The Hidden Sacrifice】

She never asked for thanks. Nor have the quiet hours she spent helping others behind the scenes been truly seen or remembered. But in those unnoticed moments, something essential was passed on— not through words, but through care.

・behind the scenes:裏で ・truly:本当に ・essential:本質的な ・pass on:受け継がれる

彼女は感謝を求めたことはなかった。人知れず誰かを支えてきた静かな時間も、心から見られたり記憶されたことはなかった。だが、その誰にも気づかれなかった瞬間の中で、大切な何かが言葉ではなく思いやりによって受け継がれていったのだ。

[文法解説]

- Nor have + 長い主語 + been + 過去分詞
→ 否定副詞 nor による倒置。主語は the quiet hours she spent helping others behind the scenes。
→ 主語の長さを保ったまま倒置し、文語的なリズムと緊張感を演出。

✓^(S)The quiet hours she spent helping others behind the scenes have been truly seen or remembered. が元の形、Nor にして、文頭に出して、後ろを倒置(疑問文の語順)にしている。